

日本の幼稚園行事について② 遠足とお弁当



園行事の遠足とは

幼稚園生活では春と秋に園からバスに乗って遠足へ行く行事がある。幼稚園や小学校低学年では「遠足」とされるが、小学校以降で行われる「社会科見学」や「校外学習」と言われる日帰りの活動やその延長線上にある宿泊を伴う「林間学校」や「修学旅行」といった行事も遠足の発展形である。家族でお出かけも楽しいが、幼稚園の先生やお友達たちと一緒にバスに乗って行く遠足はまた格別である。今回は先日筆者が付き添いとして参加した入園一年目の幼稚園児たちの初めての遠足についての感想をまとめてみた。

こちらの幼稚園は一クラスが約30人で、一学年に3クラスある幼稚園。年少クラスは3~4歳の年齢の子どもにあたる。この日の遠足は、園からバスで40分ほどの動物園へ向かった。通常なら、入園後の初めての遠足は5月頃の春の遠足であるが、今年は新型コロナウイルスの影響で、幼稚園は6月からであったため、年少の園児たちにとっては今回が初めての遠足となった。

お弁当

子どもにとって待ちに待った遠足、朝目覚めたときから既にわくわくいっぱい。筆者は子どものわくわくとは違い朝からお弁当作りに大忙しだった。普段もお弁当を持たせることはあるのだが、初めての遠足ということで、少し張り切ってかわいいキャラクターがあるお弁当という意味の「キャラ弁」というものを作ってみた。

日本のお弁当はただ食べ物をお弁当箱の容器に入れて持って行くだけではな

く、多くの品目があり、そして何よりも盛り付けがきれいである。子どもに持たせる弁当にも、子供を成長させるための要素がある。まず、一つ目に、量を完食できるように調整すること。そして、初めのうちは好きなものだけを入れてあげること。全部食べられることは子どもにとって達成感に繋がるからだ。もし、好きじゃないものを入れるとしても、ほんの少量からにしよう。何よりも、最初のうちは、「お弁当はおいしいもの。お弁当を食べる時間は楽しい時間。」だと思ってもらうことが大切である。



【お弁当：パンダのおにぎり、トマト、ボールのおにぎり、ウインナー、枝豆、玉子焼き、ハムチーズ、ブロッコリー】

遠足に向けての準備

遠足の持ち物はお弁当以外にもたくさんある。普段の幼稚園かばんとは違うリュックサックを持ち、その中に、お弁当、一人分のレジャーシート、おやつ、お手拭きや除菌シート、ごみを持ち帰るビニール袋を入れて持って行く。そして飲み物を入れて水筒を持ち、ポケットにはハンカチとティッシュを入れて持って行く。当然のことであるが、皆自分の荷物は自分で持って行く。そして、荷物の準備も、親が子どもの代わりにしておくのではなく、なるべく親が子どもと一緒に確認しながら一緒に入れることがいいでしょう。

例えば、外でお弁当を食べることになるので、レジャーシートを使うことを教えることも必要となる。一緒にリュックから出して広げたり、たたんだりする練習もしておくほうが良い。

除菌シートを使う練習やおやつを袋から出す練習、食べた後のごみを持って行

ったビニール袋に捨てる練習など、これも練習しておかないと当日できないので子どもが困ってしまう。また、公園などは和式トイレのところもあるので、和式で用を足すことができるように普段から親と一緒に練習をしてみることも必要である。



【写真：リュックの中身】

左から時計回りに、リュックサック、お弁当、水筒、除菌シート（お手拭き）、ティッシュ、ハンカチ、おやつ、ごみ袋、レジャーシート

いざ、出発！

出発前には園長先生からのお話がある。小さい子どもたちがどのくらい理解できているのだろうかと思うかもしれないが、これも行事の一環。お話の中では、気をつけて行くようにということや先生のお話をよく聞きましょうなど注意のほかに、お手伝いで引率する保護者へ向けてのご挨拶もあった。先生に続いて、園児たちが皆、筆者を含め立っていた保護者 6 名に向かって、かわいらしい声で、「よろしくおねがいします！」と言ってくれた瞬間は、こちら子どもたちの安全を見守り楽しい遠足にシなくてはと、気が引き締まる。やはり、挨拶は嬉しいものであると改めて感じた。そして、いよいよバスに乗って出発！

30名のクラスは通常は担任の先生1名と補助の先生2名が担当している。遠足へ行くこの日はこの3名の先生に加え、一クラスに2名別のクラスの保護者の付き添いが加わる。初めて遠足へ行く園児にとって、まずは並んで歩くことが難しいようである。男女一列ずつで背の順で並び、隣同士で手を繋いで歩く。子どもにとっても、教師や保護者にとっても前後の順番がすぐにわかるよう、帽子に数字のシールが貼られてある。これも一つの工夫である。



【帽子にある数字シール】 同じ数字同士の人が手を繋いで列になって歩く

動物園の中では、担任が列の先頭につき、子どもたちに動物の名前や説明をしていた。どうやら、先生たちは動物園へ来る前に園で子どもたちに様々な動物の絵本を読んであげていたようだ。子どもたちにとって、動物園へ行き動物を生で見るといふ実体験で得るインパクトは大きい。こういった体験は記憶にも残る。ただ、知識として定着させていくためには、体験のほかに、その前後に教師や保護者などが絵本や図鑑、テレビ、動画などを見ながら子どもとお話をしてあげることがとても大切になる。何回も何回もお話をしてあげたり、子どもに問題提起をして考えてもらったりするとさらに良い。見たライオンを実体験と知識と一緒にすり合わせていくことや子どもなりに表現してもらうことは、子どもの実となっていくことでしょう。



動物図鑑のライオンとライオンの絵

園行事に思うこと

新型コロナウイルスにより、幼稚園の園行事もかなり様変わりした。春と秋は遠足シーズンであるが、感染が拡大防止のために、中止となっているところも少なくないそうだ。日々の幼稚園生活で学べる経験もちろんあるが、行事は日常生活とは違う特別な経験ができる日。いずれまた日常が戻ってくるとしても、今の時間が再び戻ってくることはない。各園や学校では、行事を中止としているところも多いが、子どもたちにとって、思い出が一つ一つと減って行ってしまうことはとても悲しいことである。幼稚園や学校側には、出来る範囲で創意工夫をしてなんとか行事を中止しないでほしいものである。そして、保護者側には、行事ができることの大切を改めて認識して頂き、それが子どもにとって貴重な学習機会であると捉えてほしいと切に願う。

日文/照片 [原田捷子](#)

编辑修改: JST 客观日本编辑部